

2. 多様な臨床活動の活用

特別支援教育担当教員が実施している様々な臨床活動を、参加を希望する全学の学生にオープンにし、各学生の継続的な実践力の向上をめざすものである。

(1) 臨床活動部会の発足

平成20年度は、特別支援科学講座教員が中心に実施している臨床活動の中に、特別支援教育を専攻しない教職希望学生を受け入れるための準備を行った。平成21年1月9日に第1回臨床活動部会（写真）を発足した。

同部会では、本GPの趣旨説明を行うとともに、臨床活動に特別支援教育（C類）以外の学生の参加についての意見交換、や学生受け入れに伴う臨床活動の充実に向けて（次年度予算計画）等が話し合われた。

その結果、すでにC類以外の学生が参加している活動もあれば、ある程度の専門性を必要とする活動もあり、受け入れ環境は活動ごとに違いはあるが、すべての活動にC類以外の学生が参加可能であることが確認された。また、21年4月に各臨床活動合同の全学説明会を実施することとなった。



第1回臨床活動部会の様子

臨床活動部会の議論を踏まえ、必修科目「障害児の発達と教育」の最終授業で下記の全学説明会の案内プリントを受講学生に配布し参加呼びかけの第一歩とした。

(2) 全学説明会の案内プリント

特別支援教育時代の教員養成システムの開発

「障害児の発達と教育」を受講されたみなさんに

発達障害をはじめ、さまざまな教育的なニーズのある子ども達について、関心が深まったと思います。東京学芸大学では、いま「**特別支援教育時代の教員養成システムの開発**」という取り組みをしています。今後も特別支援関係の授業にチャレンジして、小中学校の先生に求められているニーズのある子ども達にしっかり関われる力量を身につけてもらいたいと思っています。

また、授業以外の取り組みとして障害児への指導会があります。来年度の4月下旬に、指導会の説明会を開催する予定です。掲示板に案内を出しますので興味のある人は、説明会に参加してください。

教育GP「特別支援教育時代の教員養成システムの開発」統括本部

(3) 各臨床活動の概要

第1こんぺいとう

実施場所：東京小児療育病院

実施日：毎月第2・第4土曜日の午後（13時頃～17時頃）

活動の概要：

知的障害のない自閉症スペクトラムを中心とする発達障害の小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニングのグループである。子どもたちは本活動で人とのより良いコミュニケーションの仕方や自分の気持ちのコントロールの仕方などを学んでいる。武蔵村山市にある東京小児療育病院で医師や心理職とともにこの取り組みは行っている。活動は、個別活動（じっくりタイム）と集団活動（いきいきタイム）からなっている。

大学院生・学部4年生・特別専攻科生がメインスタッフであるが、学部1年～3年生も子どもたちをマンツーマンで助ける“サポーター”として参加している。子どもは毎年10名程度、スタッフとサポーターを合せて学生は20名程度である。

学生には医師や心理の専門職とのチームアプローチを学ぶいい機会になっている。

F1サークル

実施場所 葛飾区新小岩学び交流館等

実施日 原則第一、第三土曜日午後

活動の概要：

葛飾区を中心とする地域に住む学習障害児およびその周辺の子どものソーシャルスキル・トレーニングを目的とした指導会である。会の主体は保護者であるが、本学の教員3名と千葉大学の教員1名が活動に協力している。

児童生徒は、全体活動のほか、4つのグループ（算数・漢字、国語・コミュニケーション、ゲーム・社会性、思春期・青年期）に分かれて活動を行っている。学生は、大学教員のスーパーバイズのもと、全体活動、及び、それぞれのグループ活動について指導内容を計画、実施し、評価を行っている。

むさしだいサークル

実施場所 都立武蔵台特別支援学校

実施日 原則第一、第三土曜日午前中

活動の概要：

都立武蔵台特別支援学校と共同の地域支援活動の取り組みで、同校の支援エリアに住む、小中学校等の特別な支援が必要な児童生徒を対象としている。児童生徒一人一人に対して担当する学生を決めて、学期ごとの個別指導計画、各回の個別指導計画を作成し、それに沿って指導を進めている。個別指導と小集団指導（生活年齢を基本単位）を行い、前者で

は個々の児童生徒のニーズに応じた学習指導等を、後者では社会性のスキルを高めるためのゲーム活動等を行える。また、すべての児童生徒について、K-ABC等の心理アセスメントを行って実態把握と課題分析を実施している。

小笠原研究室セラピー

実施場所：東京学芸大学 人文科学研究棟 2号館

実施日：毎週土曜日 13時から18時（ひとり、個別指導30分、集団指導45分）

活動の概要：

知的障害のある自閉症を中心とした発達障害児を対象としている。就学前の子どもから高校3年生までが毎年30名前後通ってきている。子ども達は、年齢と発達状況を考慮して3名から6名くらいの小集団に分けられ、例年6種類程度の集団活動を行う。それぞれの子どもたちは、集団活動の前後で個別指導も受けている。

学生達は、1年間を通じて、ひとりの子どもを担当しニーズに合わせた指導目標を立て、個別指導と集団指導を行っている。また、夏休みと春休みに千葉県の御宿で2泊3日の合宿を行っている。参加スタッフは、3、4年生及び特別専攻科、大学院生、研究室を卒業した現職教員や心理職で、毎年30名前後である。

学習活動 ダンボ

実施場所：都立大塚ろう学校

実施日：隔週土曜 9：30～13：00（指導時間10：00～11：30）

活動の概要：

聴覚障害と発達障害を併せ持つ小学生を対象とした教育支援活動。NPO大塚クラブと協力して学習支援のための個別指導と集団参加促進を目指した集団活動を実施している。平成20年度は子どもは13人参加しており、スタッフは学生が約40名（他大学の学生も参加している）のほかに、ろう学校や小学校、特別支援学校の教員も15名ほどスタッフとして参加している。学生スタッフは教員スタッフと一緒に指導計画を立てて、実施にあたってのスーパーバイズを受けている。

対象児に聴覚障害があるため、参加学生のほとんどが一年間で日常会話程度の手話コミュニケーション力が身につけている。



臨床活動の様子

(4) 参加学生の声

(F1に参加して)

教師に必要な資質には、子どもとかかわる力だけでなく、保護者とやり取りする力量も求められています。この活動では、発達障害のある子どもをもつ保護者と共同で取り組む支援活動を体験的に学ぶことができます。

(むさしだいサークルに参加して)

将来の教師になるために大切な活動だと思います。そして、小学校の教師に必要なのはもちろんですが、特別支援学校についてもセンター機能があるため、発達障害の知識理解はますます求められると思います。

(小笠原セラピーに参加して)

小笠原研究室のセラピーには実にさまざまなタイプの子どもたちが通ってきています。それぞれの子に必要な支援も多種多様に分かれています。先生や先輩たちとその子に今、必要なことを考え、そのことに即した指導を組み立てていくことは難しくもあり、また楽しくもありました。日々、子どもたちの成長が見て取れるのはとても楽しく、また目的に一步一步でもゆっくりと近づいていく子どもたちの姿を見ていると、自分自身もがんばろうと強く思えます。そして、その成果が現れた瞬間の感動は忘れません。小笠原研究室のセラピーでは毎回貴重な経験を積みさせていただきとても感謝しています。ここで過ごした時間が将来の糧となることは間違いなく、私自身の子どもたちに対する指導の基となっています。そして、これからもセラピーに関わっていけたらと思っています。

(ダンボに参加して)

子どもの実態に合わせた教材づくりに取り組むことはとても勉強になります。そして、工夫した教材が子どもに効果的に活用されたときにはとてもうれしいし、励みになります。

(ダンボに参加して)

ダンボの子どもは一人ひとりの様子が多様で、支援方法がなかなか見つからず苦労も少なくありませんが、現職の先生方もスタッフに入ってください一緒に計画を立てられるのですごく勉強になっています。